

目的地検索型乗換案内アプリ 『もくいく & バスロケ』開発！

始動！



人工知能AIを搭載し
海外進出に挑戦！



地方の公共交通を取り巻く現状

地方の公共交通を取り巻く現状

- ①利用者減少が続き、人口減少の影響も出始めている
- ②自由化以前の制度により体力的に限界に来ていた
- ③広大なエリアのためモータリゼーションが堅持されている
- ④交通モード間の連携がなされずネットワーク化不足
- ⑤都市圏より激しい運転手不足により路線維持困難
- ⑥街づくりに必要不可欠なインフラであるのに関心が低い

提案募集方式の 地方分権改革における意義

提案募集方式の 地方分権改革における意義

- ①この制度は聞いてはいたがしっかりと理解していなかった
- ②シンポの事前説明を受けて制度の素晴らしさを知った
- ③広大な北海道では道庁がカバーしきる難しさを補完する
- ④地方の現場では今までの制度イメージの払しょくが必要となる
- ⑤イメージ払しょくリーダーにより地方発意の提案がなされて行く
- ⑥上記のことより地方においてやりたいことがやれる様になる！

(3) 現状を取り巻く諸課題への 対応に果たす役割

観光立国インバウンド政策を
進める上での地方の公共交通、
街づくりにおけるインフラとして
維持し続けるべき地方の公共交通、
の前提となる課題

インバウンド観光に潜む重要な課題

地方の特性による課題

- ①インバウンドは、個人旅行(FIT)へ83%が移行
- ②インバウンドは、国際免許取得に制限・冬期の課題
- ③北海道に呼び込んでも、目的地まで移動できない
- ④個人旅行(FIT)向けに、二次交通がますます重要
- ⑤大都市圏の若年層は、既に免許不保持傾向が顕著
- ⑥冬期間の積雪や凍結による定時性の確保が不可能

地方の公共交通における
解決すべき課題
と
提案募集方式の活用

解決すべき課題と提案募集方式の活用

- ①全交通モードが連携して交通充足エリアの創造
- ②企画商品や時間帯による運賃・損保の弾力的運用
- ③地域特性(積雪・凍結)による専用バスレーンの設置